

令和 4 年 5 月 26 日現在

機関番号：11401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K02606

研究課題名(和文) 地域における継承的アーカイブと学習材としての活用

研究課題名(英文) Application of the hierarchical archive community and learning materials

研究代表者

外池 智 (Satoshi, TONOIKE)

秋田大学・教育文化学部・教授

研究者番号：20323230

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、2009年度から推進している戦争遺跡に関する研究、2012年度から推進している戦争体験の「語り」の継承に関する研究、2015年度から推進している継承的アーカイブを活用した「次世代の平和教育」の展開に関する研究の継続研究である。

本研究では、各地で進められている戦争体験の「語り」の継承への取り組みを調査し、実際に伝承者による講話を実施してその内容を分析するとともに、そうした継承的アーカイブを活用した「次世代の平和教育」のカリキュラムや教材、授業実践の調査・分析を実施し、その特色を明らかにする事で、新たな教材開発や授業実践構築への基礎とする事を目的とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今日、戦争を系統的流れの中で位置付け、歴史学習として学ぶだけではなく、かつて肉親や地域の人々の語りや物語っていた切実感、臨場感も含めた戦争に対する豊かな感性的認識が必要とされている。それは、平和や戦争に対する観念的、一般的な知識の獲得に終始するのではなく、戦争のより具体的諸相に迫る教育が求められているということである。そうした意味で、継承的アーカイブである戦争遺跡や戦争体験の「語り」は注目すべき題材であり、教科教育や総合的な学習の時間、学校行事など多様な教育実践の中でより発展的に活用され得る教材である。

研究成果の概要(英文)：This study is in published studies on the development of peace education of the next generation using hierarchical archiving working from2015, continuing research studies on the inheritance of war has promoted research on war-related sites are promoted from the2009 fiscal year,2012 year telling.

研究分野：社会科教育学

キーワード：継承的アーカイブ 戦争体験「語り」の継承 戦争遺跡 国立市 館山市 松代大本営地下壕

1. 研究開始当初の背景

(1) 戦場・戦争体験者の減少

親や祖父母などの身近な人たちからの「戦争」の語り伝え、すなわち「語り」による歴史（オーラルヒストリー）の伝達は、地域や家庭のいわば市井における歴史教育として戦争学習の重要な一翼を担ってきた。しかし、今日、戦後70年以上の歳月を経て、直接の戦争体験をもつ世代が年ごとに減少していくにつれ、そうした身近な人たちからの「戦争」の語り伝えは日々失われつつある。戦争の「語り部」の減少の中、今後の学校教育、とりわけ歴史教育の果たす役割はますます重要である。「ヒト」から「モノ」へ、確実に戦争の記憶や記録、痕跡が移行していく中、体験者の持つリアリティーに迫る理解・共感可能な学習をどのように展開していくのか、そのための教材をどのように開発していくのかは、これからの平和教育の大切な課題である。

(2) 「モノ」の活用としての戦争遺跡

「ヒト」から「モノ」へ、確実に戦争の記憶や記録、痕跡が移行していく中、まず活用されているのは地域に残る戦争遺跡である。例えば、全国的には、広島原爆ドームや市町村指定文化財の第一号となった沖縄県南風原町の第一外科壕群・第二外科壕群等が著名である。これらは、行政から文化財として指定・登録されることによりアーカイブが確立されつつあるが、例えば秋田市の「被爆倉庫」（日本最後の空襲と呼ばれた土崎空襲の痕跡を残した建物）の様に、その老朽化から取り壊されてしまったものもある。そうした中、1997（平成9）年には松代大本営の保存をすすめる会、文化財保存全国協議会、歴史教育者協議会などが中心となり、「戦争遺跡保存全国ネットワーク」（村上有慶、十菱駿武両代表）が結成され、全国の戦跡保存やその活用に関して、毎年シンポジウムが開催されている。

(3) 「ヒト」の活用としての「語り」の継承

全国各地で展開されている戦争体験の「語り」の継承やアーカイブは、「語り」による証言を何らかの媒体（文字、音声、映像等）でそのままアーカイブする場合とある特定の養成プログラムを経る事で直接「ヒト」から「ヒト」へ継承する試みが行われている。2012（平成24）年度からの研究では、特に後者に注目し、基本的な継承プログラムの内容構成の調査・分析、そしてその特色を明らかにしてきた。加えて、広島市「被爆体験伝承者」、長崎市「家族証言者・交流証言者」については、実際に秋田にお呼びし、その「語り」を実演していただき、その内容構成や、聴講者の感想などを分析する事で、その特色や課題を明らかにしている。本研究でも、引き続きこうした「語り」の継承に対する調査・分析を進めたい。

2. 研究の目的

本研究では、戦後70年以上の月日が流れ、戦場・戦争体験者の減少の中、各地で進められている継承的アーカイブの試み、特に戦争遺跡や戦争体験の「語り」の継承に注目し、その学校教育における活用について調査・分析し、その成果を踏まえて新たな教材を開発や具体的授業実践のための基礎的分析を進める事を目的とする。筆者は、これまでの研究では主に広島、長崎、沖縄の事例を取り上げ、研究を推進してきた。しかし、本研究ではそうした全国的に注目されてきた地域を踏まえて、次に注目されるべき地域として長野県長野市松代や千葉県館山

市・南房総市、東京都国立市等を取り上げ、比較検討する。

3. 研究の方法

(1) 戦争遺跡を活用した教育実践の調査・分析

継承的アーカイブとしてまず戦争遺跡に注目し、学校教育における活用の実態をカリキュラム（内容構成論）、教材、メソッド（方法論）等の視点から調査・分析する。具体的対象としては、まず、長野市松代の松代大本営跡、館山市「赤山地下壕」や南房総市の「大房岬要塞群」（市指定文化財）を対象にする。松代大本営跡は、アジア・太平洋戦争末期、日本の政府中枢機能移転のために長野県埴科郡松代町（現長野市松代地区）などの山中（象山、舞鶴山、皆神山の3箇所）に掘られた地下坑道跡である。加えて、前述した様に「戦争遺跡保存全国ネットワーク」結成の中核的役割を果たしたのが、松代大本営の保存をすすめる会であった。また、館山市「赤山地下壕」や南房総市の「大房岬要塞群」は、首都東京を守備するために設営されたもので、地域における戦争遺跡保存の先駆けであるとともに全国的にも注目されている。ともに、現在は市民団体によるフィールドワークや学校教育における活用が盛んな戦争遺跡である。ここでは、長野市松代や館山市、南房総市の各学校で、総合的学習の時間や学校行事、教科教育等において、これらがどのように活用されているのか、その実態を明らかにする。

(2) 戦争体験の「語り」の継承プログラムの調査・分析

戦争体験者の減少の中、広島、長崎、沖縄などの地域では、全国に先駆ける継承的アーカイブを展開してきている。例えば、広島では2012年度から開始された広島市市民局による「被爆体験伝承者」養成プロジェクト、長崎では2014年度から開始された長崎市被爆継承課による「家族証言者・交流証言者」養成事業、沖縄では沖縄県平和祈念資料館による「ボランティア養成事業」やひめゆり平和祈念資料館における「次世代プロジェクト」などである。そして、特に東京都国立市では、広島の事例に触発されて2015年より「くにたち原爆体験伝承者育成プロジェクト」に取り組んでいる。本研究では、こうした広島市「被爆体験伝承者」や長崎市「家族証言者」「交流証言者」を実際に秋田大学にお呼びして講話をしていただくとともに、その「語り」について量的分析・質的分析の視点から検討する。加えて、広島、長崎、沖縄といった教科書でも取り上げられている地域ではない、地方や地域の取り組みとして国立市の事例を取り上げ、広島や長崎の事例と同様に量的分析・質的分析の視点から検討したい。

4. 研究成果

(1) 戦争遺跡を活用した教育実践の調査・分析

まず、千葉県館山市・南房総市の戦争遺跡については、以下の項目により分析・検討した。

1. 行政としての館山市の取り組み

- (1) 『平和・学習拠点形成によるまちづくりの推進に関する調査研究』（2003年）
- (2) 「地域まるごとオープンエアミュージアム（フィールド博物館）・館山歴史公園都市」構想
- (3) 館山市行政の施策

2. 「NPO 法人安房文化遺産フォーラム」の取り組み

- (1) 団体の概要と設立の経緯
- (2) 主な事業
- (3) ガイドスタッフの養成

3. 館山の戦争遺跡の教育的活用

- (1) 『歴史地理教育』における千葉県の平和教育実践
- (2) 愛沢伸雄氏の教育実践「『かにた婦人の村』と従軍慰安婦」

資料 -1 所属関連・種類別にみた市内戦争遺跡の状況

区 分	種 別							備 考
	物件数	基地・指揮所	防空壕	掩体壕・格納庫	保管用倉庫	砲台	その他	
館山海軍航空隊関係	15	2	2	2	1	4	4	館山地区に集積
洲ノ崎海軍航空隊関係	6	1	1				4	館山地区笠名に集積
館山海軍砲術学校関係	6					2	4	神戸地区に集積
第59震洋隊関係	2	2						西岬地区に集積
横須賀防備隊関係	3	1					2	
第2海軍航空廠館山補給工場関係	3			1	1		1	
横須賀軍需部館山支庫関係	4			1	3			
東京湾要塞関係	8				2	2	4	
計	47	6	3	4	7	8	19	

・ 地方自治研究機構編 『平和・学習拠点形成によるまちづくりの推進に関する調査研究 館山市における戦争遺跡保存活用方策に関する調査研究』(千葉県館山市企画部企画課、2003年)、35頁より作成。



かにた婦人の村「噫従軍慰安婦」の碑



128高地「戦闘指揮所」地下壕

次に、長野県長野市松代にある松代大本営地下壕に注目し、その学校教育における活用を以下の視点から検討した。

- 1. 「NPO 法人松代大本営平和祈念館」の取り組み
- 2. 松代大本営地下壕の教育的活用



入口から入った壕の様子



象山地下壕内部で案内する久保田雅文氏

(2) 戦争体験の「語り」の継承プログラムの調査・分析

次に、戦争体験の「語り」の継承について、特に広島市「被爆体験伝承者」と長崎市「家族証言者」「交流証言者」に注目し、直接秋田大学にお呼びして講話の実施を試みた。具体的には、一昨年度 2018（平成 30）年度の第 4 回目には広島市「被爆体験伝承者」の山岡美知子氏（講話時 67 歳）と長崎市「家族証言者」の平田周氏（講話時 59 歳）、昨年度 2019（令和 1）年度の第 5 回目には広島市「被爆体験伝承者」の石綿浩一氏（講話時 55 歳）と長崎市「交流証言者」の田平由布子氏（講話時 26 歳）、そして 2020（令和 2）年度の第 6 回目には、広島市「被爆体験伝承者」の清野久美子氏（講話時 62 歳）と、長崎市「交流証言者」の中島麗奈氏（講話時 19 歳）をお呼びした。これらの実施された講話に対して、文字起こしによるプロット毎の「語り」の時間と文字数からの量的分析、また聴講者からのアンケート結果（自由記述）からの質的分析から分析・検討した。

さらに、こうした広島市や長崎市の活動に触発され、今やその活動は全国に広がりつつあるが、その代表的な事例として、東京都国立市の「くにたち原爆体験伝承者」育成プロジェクトを取り上げた。広島市や長崎市の事例と同じく、事業の目的や応募者の特性、育成プログラムの内容とその特色などを分析するとともに、実際の講話の内容構成と量的分析、また聴講者からのアンケート結果（自由記述）からの質的分析から分析・検討した。



広島市「被爆体験伝承者」山岡美知子氏



長崎市「家族証言者」平田周氏

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 外池智	4. 巻 第43号
2. 論文標題 地域における継承的アーカイブと学習材としての活用(3) 松代大本営地下壕を事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要』	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 外池智	4. 巻 第76号
2. 論文標題 戦争体験「語り」の継承とアーカイブ（8） 広島市「被爆体験伝承者」、長崎市「交流証言者」を事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『秋田大学教育文化学部研究紀要 教育科学』	6. 最初と最後の頁 39-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 外池智	4. 巻 第42号
2. 論文標題 地域における継承的アーカイブと学習材としての活用(2) 「館山歴史公園都市」構想と「館山まるごと博物館」を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要』	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 外池智	4. 巻 第75集
2. 論文標題 戦争体験「語り」の継承とアーカイブ（7） 広島市「被爆体験伝承者」、長崎市「交流証言者」を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『秋田大学教育文化学部研究紀要 教育科学』	6. 最初と最後の頁 49-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 外池智	4. 巻 41号
2. 論文標題 地域における継承的アーカイブと学習材としての活用 「くたち原爆体験伝承者」育成プロジェクトを事例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要』	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 外池智	4. 巻 74号
2. 論文標題)戦争体験「語り」の継承とアーカイブ(6) 広島市「被爆体験伝承者」・長崎市「家族証言者」を事例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『秋田大学教育文化学部研究紀要 教育科学』	6. 最初と最後の頁 67-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件(うち招待講演 9件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 記憶と記録～秋田県の戦争遺跡をたどって～
3. 学会等名 令和2年度あきたスマートカレッジ あきた教養講座(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 地域における継承的アーカイブと学習材としての活用(2) 松代大本営地下壕を事例として
3. 学会等名 日本社会科教育学会 第70回全国研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 歴史教育における社会参加と社会参画 南風原中学校, 山里小学校, 北東北三大学の取組を事例として
3. 学会等名 日本社会科教育学会 第70回全国研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 記録と記憶～秋田県の戦争遺跡をたどって～
3. 学会等名 土崎空襲の遺跡が語る「講演会と上映会」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 地域における継承的アーカイブと学習材としての活用 「館山歴史公園都市」構想と「館山まるごと博物館」を事例として
3. 学会等名 日本社会科教育学会 第69回全国研究大会 自由研究発表
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 継承的アーカイブと秋田の現状
3. 学会等名 秋田・市民のメディア研究会 9月例会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 全国の戦争遺跡の指定・登録の現状と秋田県戦争遺跡研究会の取り組み
3. 学会等名 秋田近代史研究会 2019年秋季研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 戦後70年における「次世代の平和教育」 広島、長崎を事例として
3. 学会等名 日本平和学会2019年度 秋季研究集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 地域の継承的アーカイブと「次世代の平和教育」 秋田県の地域素材を事例として
3. 学会等名 第59回秋田県民間教育連絡協議会 冬の研究集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 戦争体験「語り」の継承と「次世代の平和教育」（3） 「くにたち原爆体験伝承者」育成プロジェクトを事例として
3. 学会等名 日本社会科教育学会第68回全国研究大会（奈良大会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 広島・長崎・沖縄、そして秋田での「次世代の平和教育」
3. 学会等名 関西平和教育学フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 戦争体験「語り」の継承 広島、長崎、沖縄、国立を事例として
3. 学会等名 立命館大学国際平和ミュージアム第10回ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 外池智	4. 発行年 2021年
2. 出版社 八郎潟印刷	5. 総ページ数 255
3. 書名 2018-2020年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書 地域における継承的アーカイブと学習材としての活用	

1. 著者名 秋田県戦争遺跡研究会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 秋田文化出版	5. 総ページ数 191
3. 書名 秋田県の戦争遺跡 次世代を担うあなたへ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------